

# 九州電力の概要

- ・ 会 社 名 : 九州電力株式会社
- ・ 設 立 年 月 日 : 1951年5月1日
- ・ 本 店 所 在 地 : 福岡県福岡市中央区渡辺通二丁目1番82号
- ・ 資 本 金 : 2,373億円
- ・ 主 な 事 業 内 容 : 電気事業, 熱供給事業, 電気通信事業など
- ・ 供 給 区 域 : 福岡県, 佐賀県, 長崎県, 大分県, 熊本県, 宮崎県, 鹿児島県

## 〔2004年度の主だった組織変更〕

- お客さまサービスの一層の向上と業務効率化の観点から、コールセンターを全社に拡大
- ・福岡(対象支店:北九州・福岡),佐賀(対象支店:佐賀・長崎)コールセンターを運用開始(2004年5月18日)
- ・大分(対象支店:大分・熊本),鹿児島(対象支店:宮崎・鹿児島)コールセンターを運用開始(2004年6月22日)

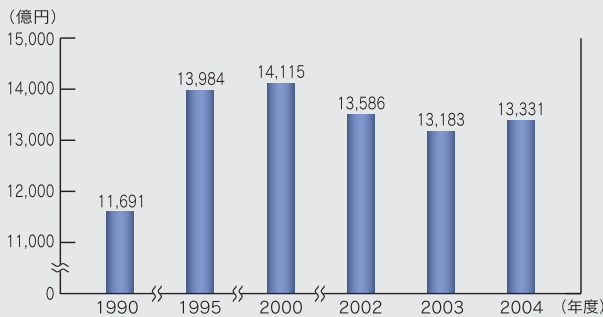
- 一層の営業力強化及び経営効率化の観点から、営業所の廃止・統合を実施  
〔北九州支店〕豊前営業所を廃止し、行橋営業所に統合(2004年10月18日)  
〔福岡支店〕前原営業所を廃止し、福岡西営業所に統合(2004年10月18日)  
〔熊本支店〕水俣営業所を廃止し、八代営業所に統合(2005年1月24日)  
〔鹿児島支店〕志布志営業所を廃止し、鹿屋営業所に統合(2005年1月24日)
- 新鋭火力の開発に伴い、効率の低い高経年の火力発電所を廃止  
港発電所〔出力15.6万kW 石炭火力〕(2004年4月1日廃止)  
新小倉発電所1,2号〔出力15.6万kW×2 LNG火力〕(2004年10月1日廃止)

## 事業の概況 (2004年度)

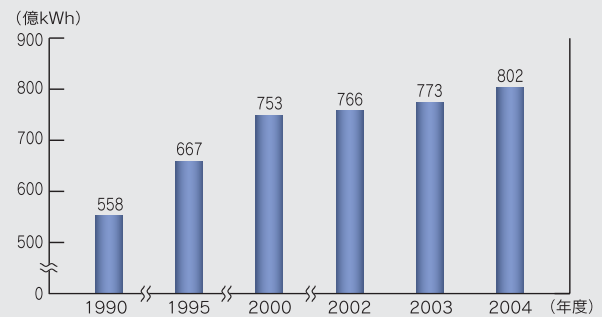
項 目	単 独	(参考)	項 目	単 独	(参考)
		財務関係上の連結*			財務関係上の連結*
売上高 (億円)	13,331	14,087	1株当たり当期純利益 (円)	188.33	187.91
販売電力量 (億kWh)	802	—	FCF①(フリーキャッシュフロー) (億円)	2,001	2,129
経常利益 (億円)	1,529	1,599	ROA①(総資産営業利益率) (%)	3.4	3.3
当期純利益 (億円)	893	892	ROE①(株主資本利益率) (%)	10.0	9.4
株主資本 (億円)	9,293	9,792	設備投資 (億円)	2,001	2,105
総資産 (億円)	38,065	40,497	従業員数 (人)	13,505	19,328
1株当たり株主資本 (円)	1,961.19	2,067.54			

※: 45社が対象 (内訳: 連結子会社21社, 持分法適用会社24社)

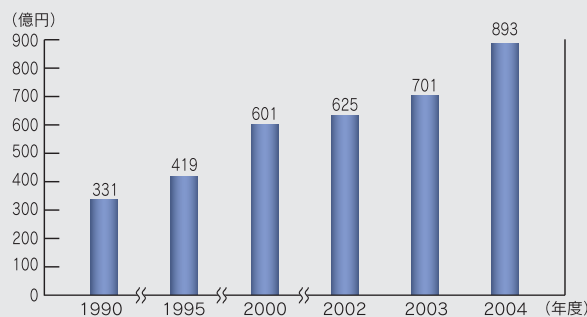
### ■売上高の推移



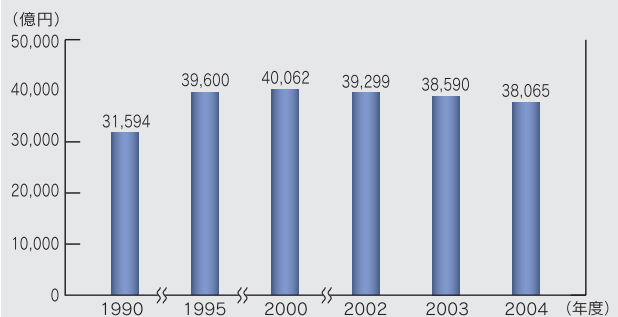
### ■販売電力量の推移



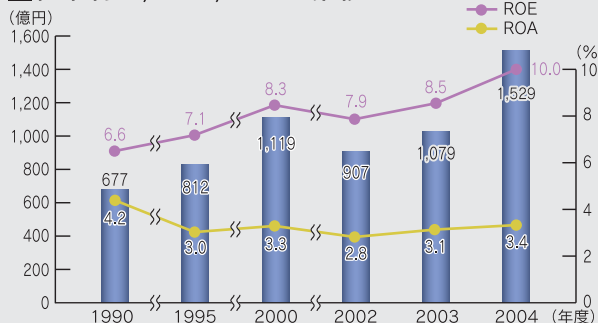
### ■当期純利益の推移



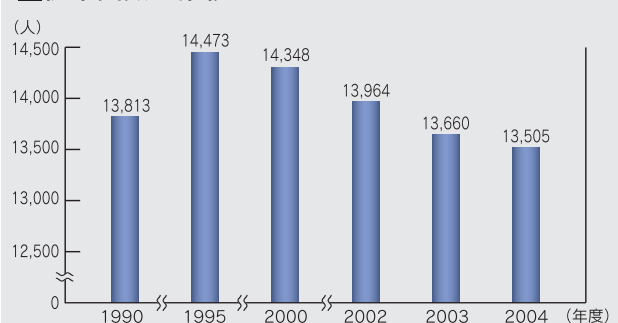
### ■総資産の推移



### ■経常利益, ROA, ROEの推移



### ■従業員数の推移



## 企業の社会的責任 (CSR) への取り組み

### ◇九州電力グループ行動憲章

九州電力グループ一体となったCSR①への取り組み姿勢を明確に示すため、従来の「九州電力企業行動憲章」を見直し、「九州電力グループ経営ビジョン」(2002年2月制定)に基づく企業活動の具体的規範として、グループ大の行動憲章である「九州電力グループ行動憲章」を制定(2005年1月)しました。

### 九州電力グループ経営ビジョン (抜粋)

#### 〔基本理念〕

もっとエネルギーに、もっとお客さまのために

#### 〔九電グループの経営姿勢〕

私たちは、お客さま、株主・投資家、社会、従業員の満足度を高めることが、グループの価値を高めると考えます。

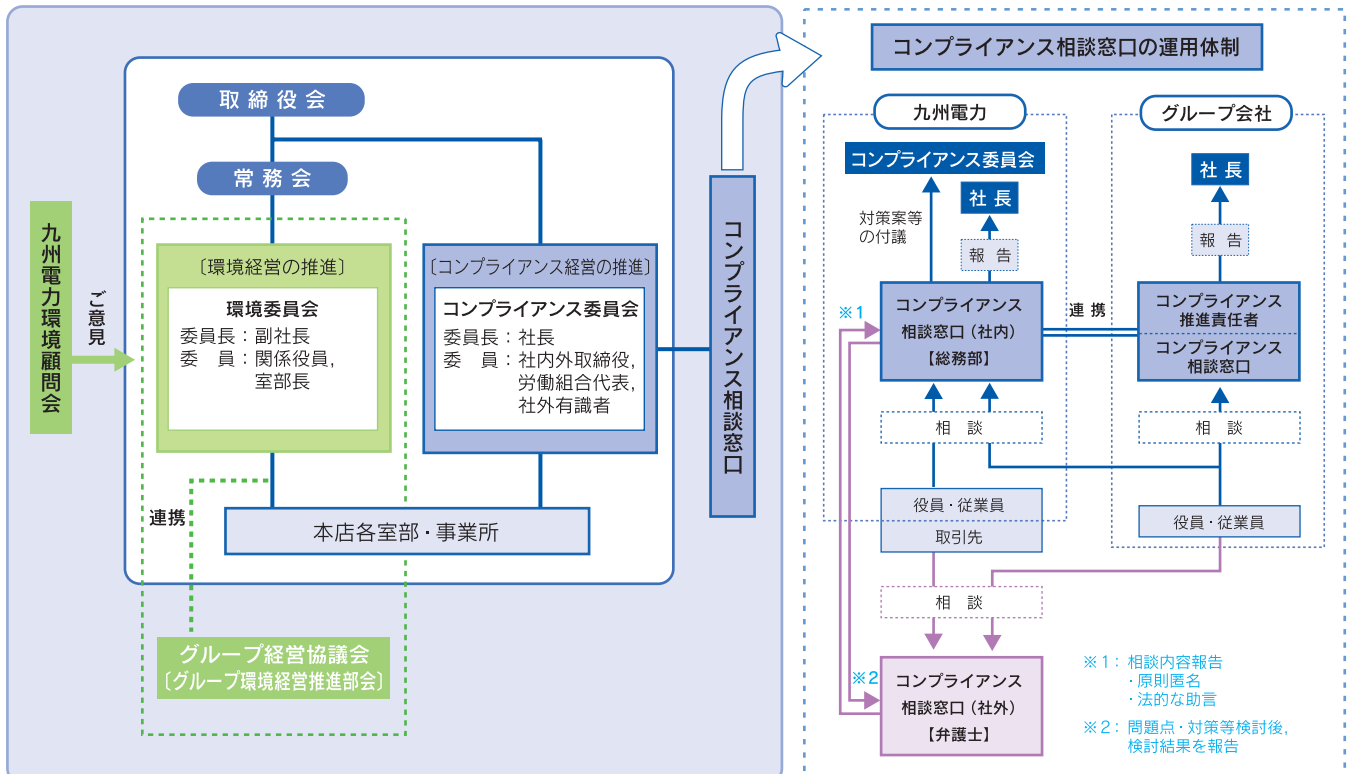
### 九州電力グループ行動憲章 (抜粋)

九州電力グループは、「お客さま」を全ての企業活動の原点として、エネルギーを中核にした商品・サービスの提供を通じ、自らの企業価値を持続的に創造することにより、社会とともに発展することを目指しています。同時に、国内外を問わず人権を尊重し、快適で豊かな社会の創造に貢献するため、グループ一体となった事業運営を展開しています。このような企業活動を社会の信頼と共感のもと着実に遂行するため、以下の原則に基づきコンプライアンス①経営を推進してまいります。

- |               |                 |                       |
|---------------|-----------------|-----------------------|
| 1 お客さま満足の向上   | 5 環境経営①の推進      | 9 法令遵守                |
| 2 誠実かつ公正な事業活動 | 6 地域・社会への貢献     | 10 本憲章の精神の徹底と経営トップの責務 |
| 3 安全文化の醸成     | 7 明朗な企業風土づくりの推進 |                       |
| 4 コミュニケーション活動 | 8 国際社会との協調      |                       |

九州電力グループ行動憲章の詳細については、 CD 19

### ◇九州電力グループ一体となったコンプライアンス・環境経営の推進体制



## 中期経営方針（2005～2009年度）＜スローガン「基盤固め、そして成長」＞

九州電力は、従来の中期経営方針（2002～2006年度）における経営目標の達成の見通しがつきつつあること、及び2005年4月から電力自由化範囲の拡大や振替供給料金の廃止などにより本格的な競争がスタートするなど、経営環境が大きく変化していることなどを踏まえ、2005年度から2009年度までの5か年を対象として、新たな中期経営方針を策定しました。

### 企業理念

#### ヒューマンな九州を創る企業体

- 〔行動指針〕
- 九州電力は、永遠にエネルギーの火を燃やし続けます。
  - 九州電力は、地域とスクラムを組み、真に豊かな社会とはなにかを考え、行動します。
  - 九州電力は、時代の空気を先取りする、ダイナミックな企業風土をつくります。

## 中期経営方針（2005～2009年度）

### 基本的な考え方

#### ◇経営姿勢

「お客さま」を企業活動の原点として、経営品質の向上を図り、お客さま、株主・投資家、社会、従業員の満足度を高めることにより、持続的な企業価値向上を目指す。

#### ◇時代認識

対象とする今後5年間で「総合エネルギー事業を中心としたグループの事業基盤を強固なものとし、新たな成長を目指す期間」と位置付ける。

### 今後の事業展開の方向性

- 電気事業の経営、事業ノウハウを基盤とした総合エネルギー事業をコア事業として、積極的な展開を図る。
- 情報通信事業、環境・リサイクル事業、生活サービス事業についても、有形・無形の経営資源を活用し、地域のお客さまニーズにお応えしていく。
- それぞれの事業領域において、収益性をキーワードに、効率性の向上と成長性の追求に努める。

### 経営目標

#### ◇お客さまの視点

価 格	市場競争力のある価格の実現
品 質	高い信頼性と迅速な対応
サ ー ビ ス	お客さまニーズに即したソリューションの提供
企業イメージ	「信頼と安心」のブランドの確立

#### ◇財務の視点

		目 標		目標年次
		連 結	単 体	
収益性・財務安定性	FCF①	1,200億円	1,000億円	2005～2009年度 の5か年平均
	経常利益	1,100億円	1,000億円	
	ROA①	3%	3%	
	株主資本比率	30%	30%	2009年度末
【FCFの使途】				
○株主資本比率30%(2009年度末)達成のための有利子負債削減				
○当社の成長戦略に沿った投資・出資(5か年で600億円程度)				
○安定配当				
効 率 性		業界トップクラス		
成 長 性	新規需要創出量 (電気事業)	25億kWh (対2003年度)		2009年度
	グループ売上高 (電気事業以外)	1,000億円増 (対2003年度)		
事業領域ごとの 経常利益	総合エネルギー事業 (電気事業除く)	40億円		2005～2009年度 の5か年平均
	情報通信事業	40億円		
	環境・リサイクル事業, 生活サービス事業	20億円		

## 主な取り組み項目

### 【基盤固め】

- 業界トップクラスを目指した効率性の向上
- 信頼される事業基盤の確立
- 企業の社会的責任（CSR①）への取り組み
- 組織の能力向上

### 【成長性の追求】

- お客さまニーズに基づいた事業展開
- 従業員の意欲・能力向上

## 中期経営方針におけるCSRへの取り組み

- 環境・エネルギー問題、製品・サービスの安全性、雇用のあり方などに対する意識の高まりや、企業不祥事によるブランド価値の崩壊、社会的責任投資（SRI）の拡大などを背景に、CSRへの取り組みが大きくクローズアップされています。
- 九州電力では、これまでも情報公開に積極的に取り組むとともに、1998年に「九州電力企業行動憲章」を制定し（2005年1月に「九州電力グループ行動憲章」に見直し）全社へ浸透を図るなど、経営の透明性の確保と公正な事業活動の推進に努めてきました。
- 今回新たに策定した「中期経営方針」においては、お客さまや株主・投資家の皆さまから信頼され、選ばれる企業となるため、「CSRへの取り組み」を経営方針上の主な取り組み項目の一つとして位置付け、環境経営①やコンプライアンス①経営の推進などを通して、これまで以上に企業の社会的責任を果たしていく姿勢を明確にしました。

## 【CSRへの主な取り組み項目】

コンプライアンス経営の推進	安全第一主義の徹底	経営の透明性確保に向けた情報公開の一層の推進
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 法令遵守の徹底や企業倫理に則った公正な事業活動の推進</li> <li>● 個人情報保護など情報セキュリティ体制の強化</li> <li>● 法務体制の充実・強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 設備の安全確保、作業時の安全確保の最優先</li> <li>● 商品、サービスの安全性向上、電気安全に対する知識の普及</li> <li>● 安全と健康に留意した職場環境の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 投資家のニーズを踏まえたIR活動①の推進</li> <li>● 原子力関係情報の適宜・適切な発信</li> </ul>
環境経営の推進	人権の尊重と働きやすい労働環境の整備	地域・社会との共生
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 温室効果ガス①排出量削減への取り組み</li> <li>● 再生可能エネルギー①の開発やゼロエミッション①への取り組み</li> <li>● 環境に関するコミュニケーションの推進</li> <li>● 環境エネルギー教育の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 男女共同参画の推進</li> <li>● 高齢者や障害者等の雇用推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 街づくり・地域づくりへの参画</li> <li>● 地域文化、スポーツ活動、ボランティア活動などへの継続的な取り組み</li> </ul>

社会面での取り組み概要については、 CD 16

## TOPICS No. 1

### ニューズウィーク『世界企業500社ランキング』に見る九州電力のCSRの現状

九州電力は、ニューズウィーク（2004年6月2日発行）の紙上企画である、財務業績と社会的責任（CSR）の両面から日米欧代表的企業500社を格付けした「世界企業500社ランキング」において110位（国内121社中18位）にランクされました。この結果も参考に、今後より一層CSRの取り組みを社内に浸透させていく考えです。

## 【ランキングの概要】

- 【評価の方法】 財務力（60点満点）とCSR（60点満点）の合計点で決定
- 【財務力の評価方法】 「収益性」「成長性」「安全性」（各20点満点）の観点から総合評価
- 【CSRの評価方法】 以下の4項目を各15点満点で評価
- ・企業統治（取締役会の独立性、法令遵守体制、倫理規定など）
  - ・従業員（従業員の機会均等、健康と安全、雇用安定、組合化率、教育・育成、女性取締役の比率など）
  - ・社会（途上国での人権保護、公正な調達、顧客や取引先との関係、社会貢献活動など）
  - ・環境（環境問題への取り組みや成果、自然エネルギー利用の有無など）

### 【九州電力の評価】

項目	財務				社会的責任（CSR）					総合得点
	収益性	成長性	安全性	合計	企業統治	従業員	社会	環境	合計	
得点	10	7	6	23	12.3	7.5	8.5	10.4	38.7	61.7